

平成28年4月1日から

ごみの出し方が変わります 新しいごみ処理施設がオープンします



汚れが取り切れない
容器包装プラスチック



津市リサイクルセンター



津市一般廃棄物最終処分場

平成28年2月3日

津市のごみ処理

市 民

3Rの取り組み 循環型社会形成推進基本法

→ ごみの発生抑制 **リデュース**

→ 再使用 **リユース**

→ ごみの再生利用 **リサイクル**

ごみの排出時に分別を徹底

行 政

資源化

津市白銀環境清掃センター リサイクルプラザ
(平成28年4月～津市リサイクルセンター)

焼却

津市西部クリーンセンター・津市クリーンセンター
おおたか

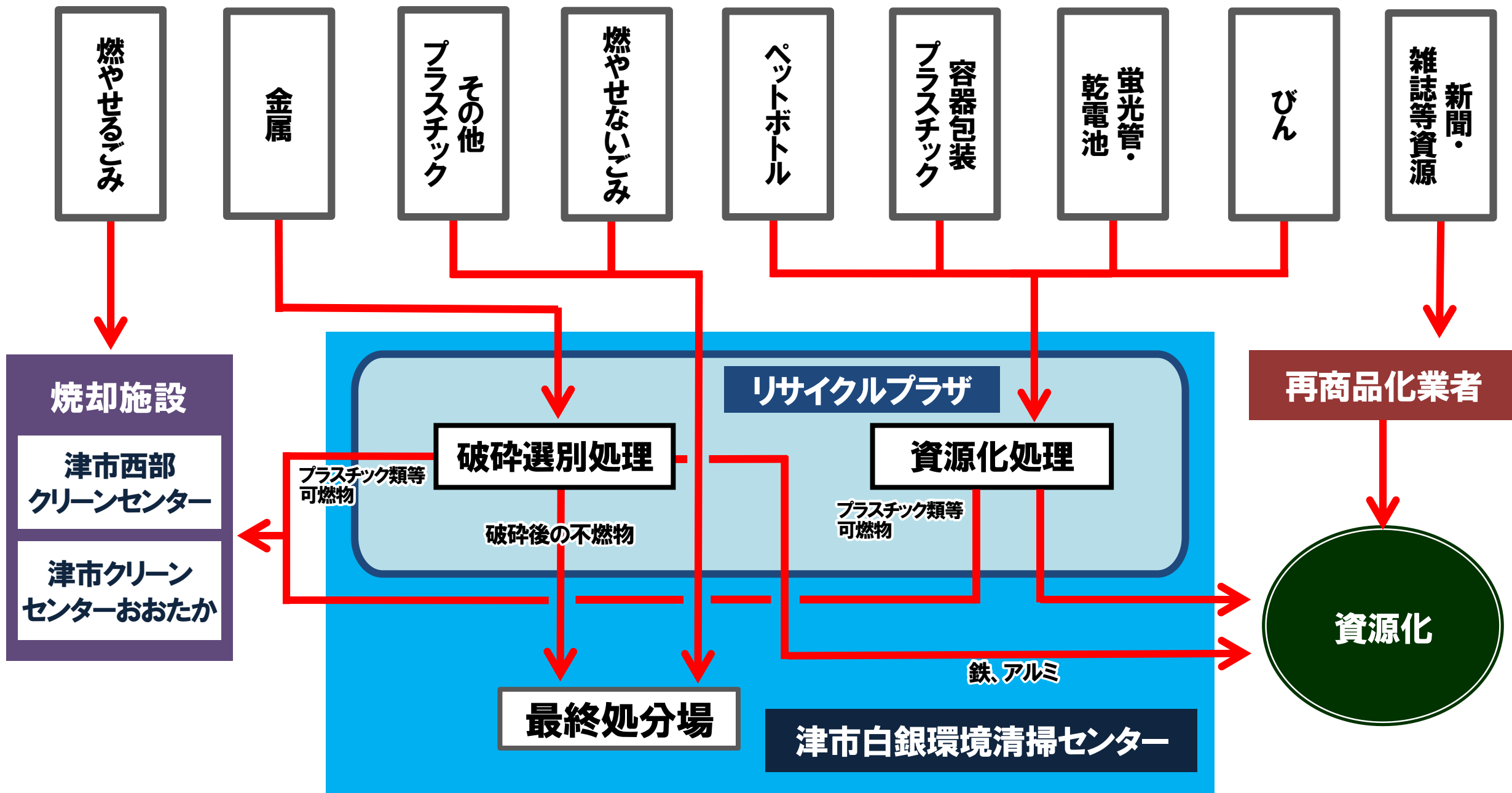
埋立

津市白銀環境清掃センター
(平成28年4月～津市一般廃棄物最終処分場)

環境にやさしい循環型社会の形成、ごみの削減

現在のごみ処理の流れ

各家庭等で分別



平成28年4月1日から変わるごみの出し方

- ▶ 容器包装プラスチックの汚れが取り切れないものは、燃やせるごみに出せます



- ▶ ペットボトルの収集回数を月1回から月2回へ増やします

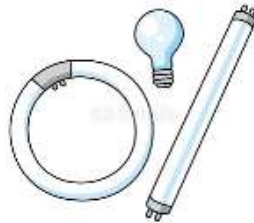
- ▶ 新たに「危険ごみ」分別区分ができます



スプレー缶
卓上カセットボンベ



使い捨てライター



蛍光管



乾電池



水銀式体温計

平成28年4月1日からの変更点

変更前（現在）

燃やせるごみ

容器包装プラスチック

燃やせないごみ

蛍光管・乾電池

金属

その他プラスチック

ペットボトル

月1回
収集

びん

新聞・雑誌等資源

汚れが取り切れないもの

使い捨てライター

スプレー缶
カセットボンベ

変更後（4月1日）

燃やせるごみ

容器包装プラスチック

燃やせないごみ

危険ごみ

金属

その他プラスチック

ペットボトル

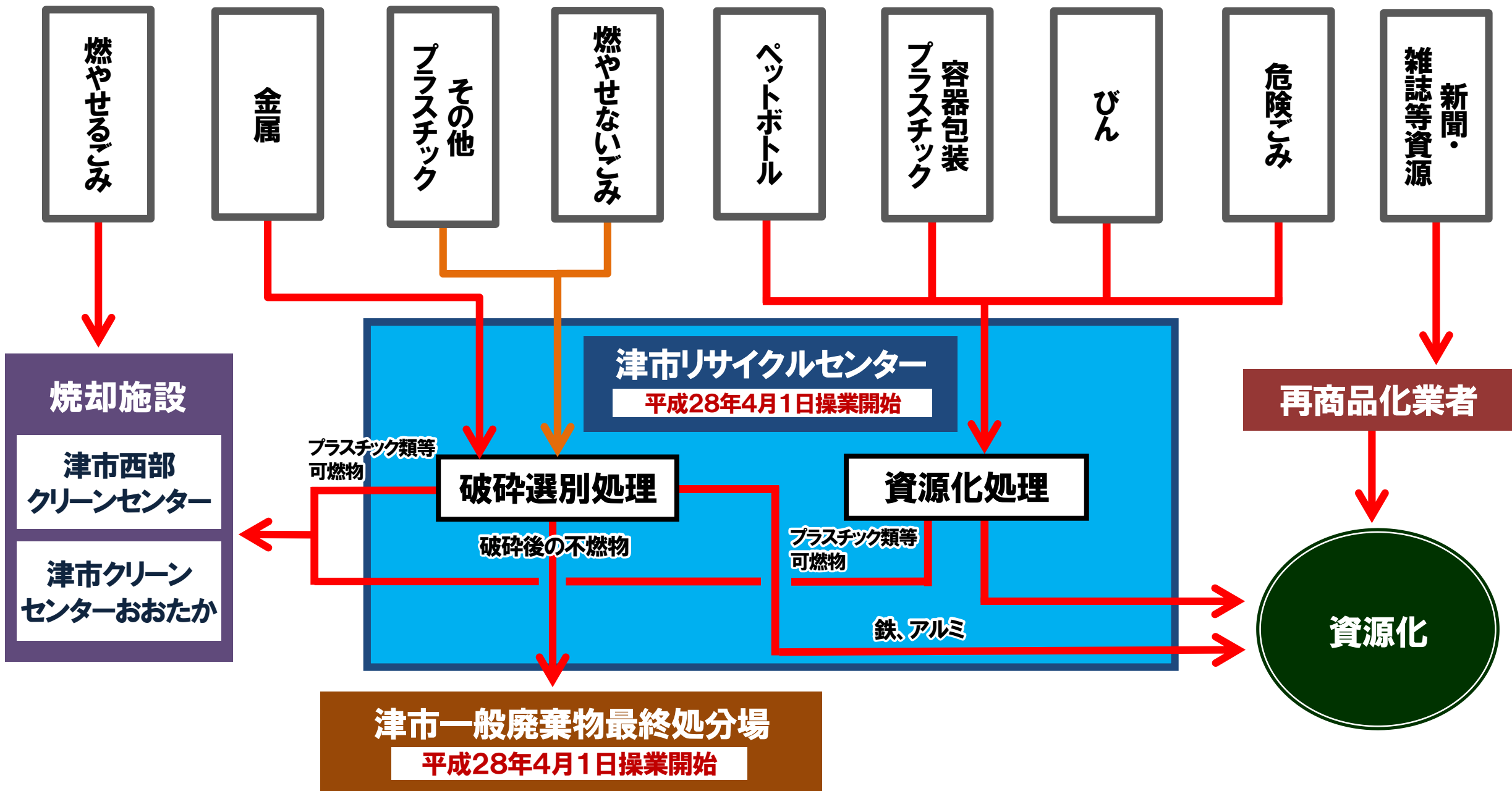
月2回
収集

びん

新聞・雑誌等資源

平成28年4月1日からのごみの処理の流れ

各家庭等で分別



変更点①

汚れが取り切れない容器包装プラスチックは燃やせるごみへ

使用済みの容器包装プラスチック

平成28年4月1日から

家庭

汚れがとれるもの

汚れを取り除く

容器包装プラスチックの日に集積場所へ

+

汚れが取り切れないもの

汚れたまま
燃やせるごみの日に
集積場所へ

汚れて
いるもの

津市

汚れたものを手作業で選別

汚れているもの

焼却処理

きれいなものは資源化

きれいなもの

資源化 リサイクル

変更点②

ペットボトルの収集回数を月1回から月2回へ増やします

**ペットボトルの製品
の多様化**

排出量の増加

**家庭での置き場
の確保が困難に**

月1回収集

月2回収集

変更点③

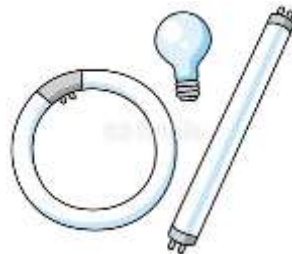
新たに「危険ごみ」分別区分ができます



スプレー缶
卓上カセットボンベ



使い捨てライター



蛍光管



乾電池



水銀式体温計

3カ月に1回収集

卓上カセットボンベ・ スプレー缶

これまでは穴を
開けて金属ごみ



平成28年4月1日からは、**穴を開けずに**
「危険ごみ」として出すことができます

- 穴を開けないことで**安全で便利**に
- 今までと同様に穴を開ければ金属ごみでも可

平成28年4月1日オープン 新しいごみ処理施設
「津市リサイクルセンター」
「津市一般廃棄物最終処分場」

新しいごみ処理施設



津市リサイクルセンター

片田田中町



津市一般廃棄物最終処分場

美杉町下之川



津市リサイクルセンターの施設概要①

敷地面積

約10ha
造成面積 4ha
自然区域ゾーン 6ha



処理能力

89トン／日

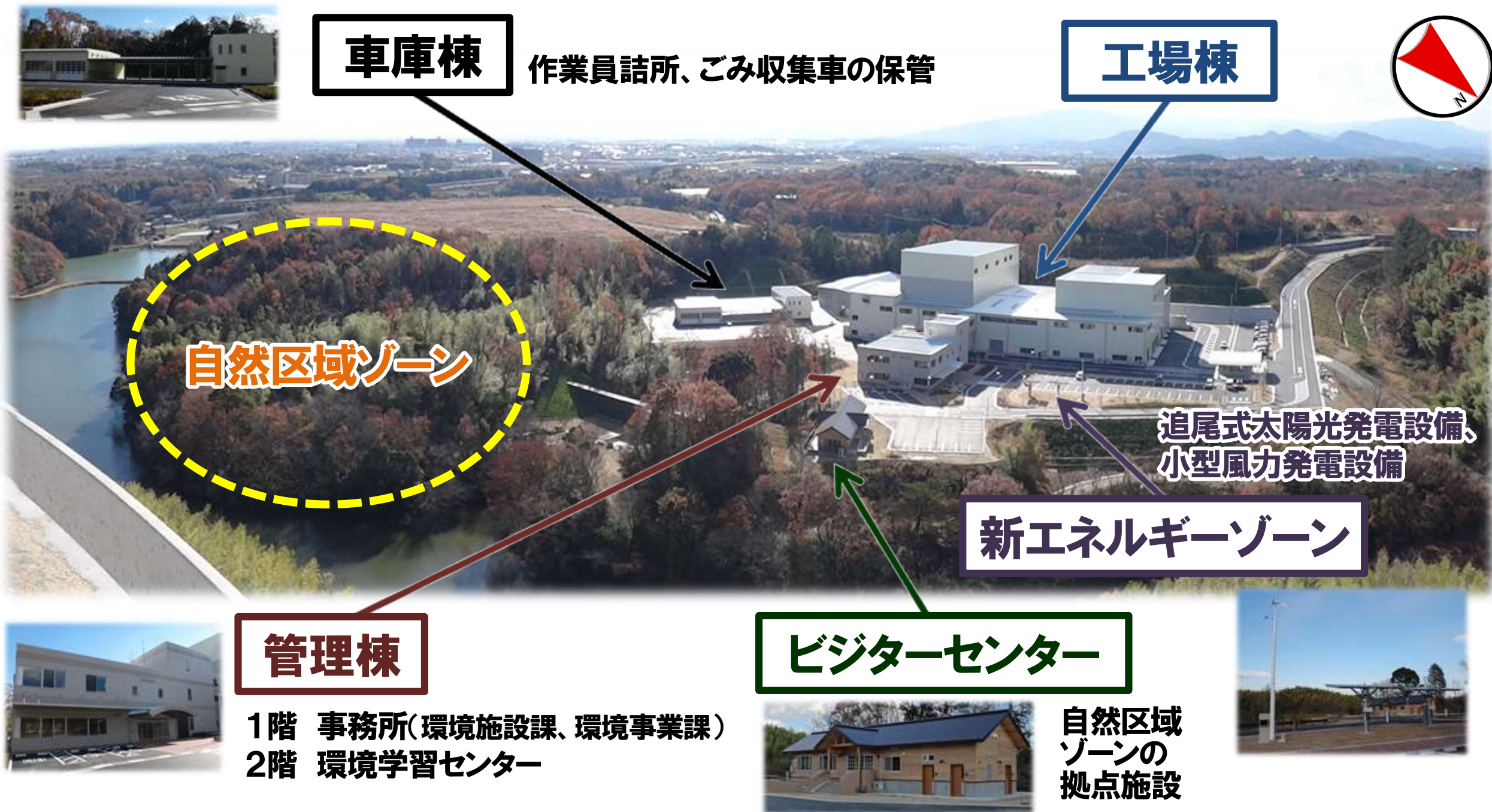
破砕選別処理施設	42	トン／日
容器包装プラスチック	25	トン／日
びん処理	9	トン／日
ペットボトル処理施設	5	トン／日
可燃性粗大ごみ切断機	5	トン／日
蛍光管処理設備	2	トン／日
スプレー缶等危険ごみ処理設備	1	トン／日

事業費

48億円

財源内訳	
循環型社会形成推進交付金(環境省)	14億円
合併特例事業債	30億円
一般財源	4億円

津市リサイクルセンターの施設概要②



津市リサイクルセンターの施設概要③ー1

工場棟

収集されたごみや市民から直接搬入されたごみを
資源化处理



工場棟



計量



プラットフォーム



手選別室

管理棟

啓発を通じて市民の3R「ごみの発生抑制」、「再使用」、
「ごみの再生利用」に対する意識向上を図る施設

1階 環境施設課、環境事業課

2階 環境学習センター
(3R体験学習施設)



津市リサイクルセンターの施設概要③ー2

ビジター センター

**自然区域ゾーンの拠点施設
（自然観察会などを通じて
自然環境を学び、体験する
施設）**



車庫棟

**作業員詰所、ごみ収集車の保管
（ごみ収集車10台など）**



新エネルギー ゾーン

**追尾式太陽光発電設備 4.4kwh
小型風力発電設備 1kwh**



津市リサイクルセンター竣工式・市民見学会、プレスツアー

竣工式・市民見学会

日時

平成28年3月30日(水曜日)

竣工式 10時00分～11時45分

市民見学会 13時00分～15時00分

(受け付けは14時00分まで)

場所

津市リサイクルセンター(片田田中町)

プレスツアー

日時

平成28年3月15日(火曜日) 13時30分～

津市リサイクルセンター管理棟入口にて受付

津市一般廃棄物最終処分場の施設概要

事業区域面積	約40ha
埋立面積	約1.2ha
埋立容量	約18万 m^3 (約9万 m^3 ×2槽)
埋立期間	15年



埋立廃棄物	津市リサイクルセンターで破砕・選別処理した不燃残さ
供用開始	平成28年4月1日(第1期 約9万 m^3)

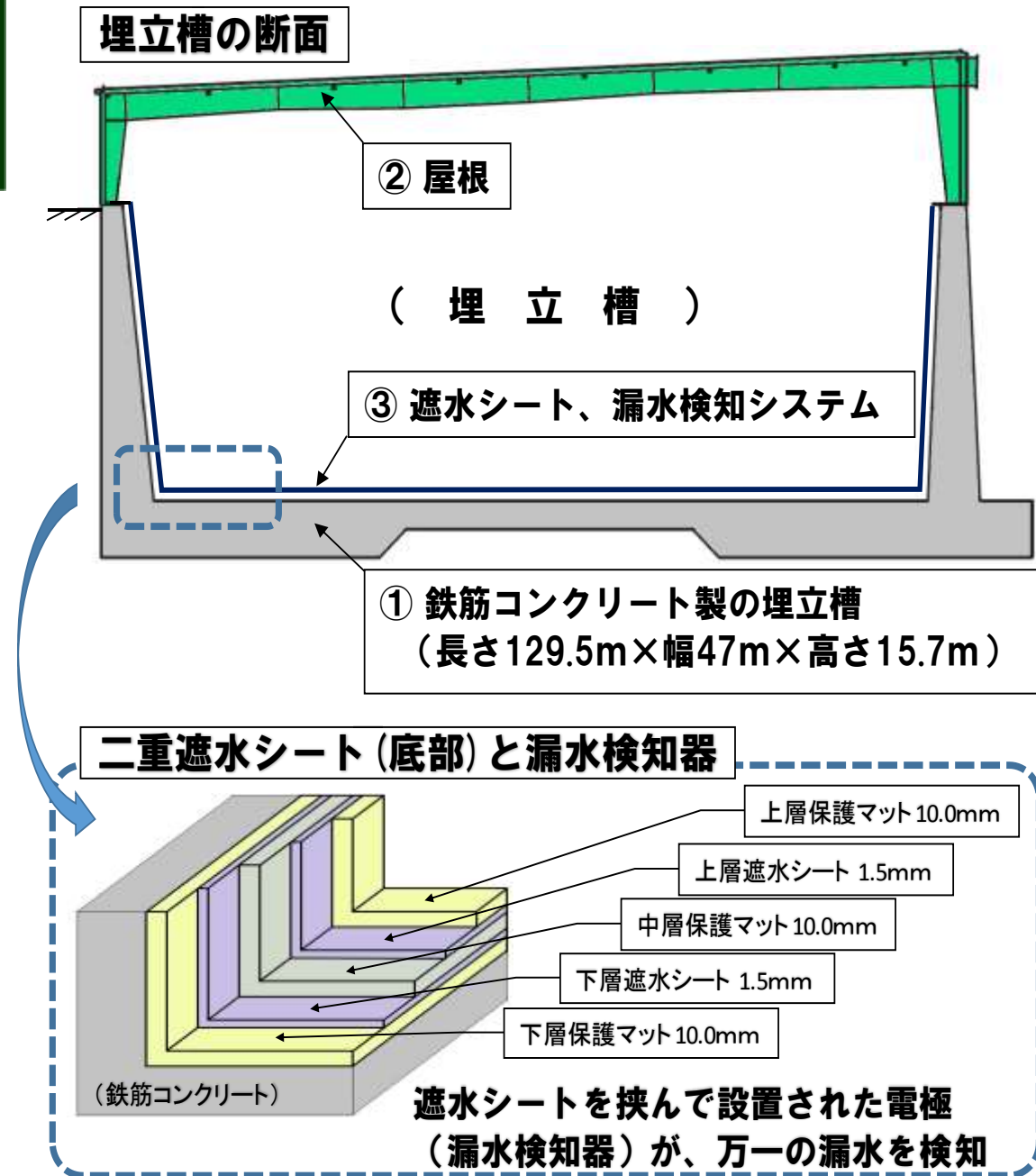
事業費	約93億円 第1期完成まで65億円 財源内訳 循環型社会形成推進交付金 14億円 合併特例事業債 45億円 一般財源 6億円
-----	--

施設の特徴①

周辺環境への影響に 配慮したクローズドシステム



- 鉄筋コンクリート製の埋立槽を屋根で覆い、雨水の侵入やごみの飛散を防止し、内面に遮水シートを敷き、水を外部に漏らさない
- 漏水検知システムで万一の漏水を監視



施設の特徴②

埋立ごみを洗淨して廃棄物を早期安定化

前処理施設

埋立て前にごみを洗淨
(付着した有機物等の汚れを洗い落す)

散水設備 (埋立槽)

埋立て後は埋立槽に散水
(前処理洗淨後に残った汚れをさらに洗い出す)

廃棄物を早期安定化

埋立て中はガスや臭気などの発生が少なく、
埋立て完了後は早期にほとんど発生しなくなる



前処理の流れ

津市リサイクルセ
ンターからの埋
立ごみ

受入ヤード

受入ホツパ

供給コンベア

洗淨装置

搬出コンベア

貯留ホツパ

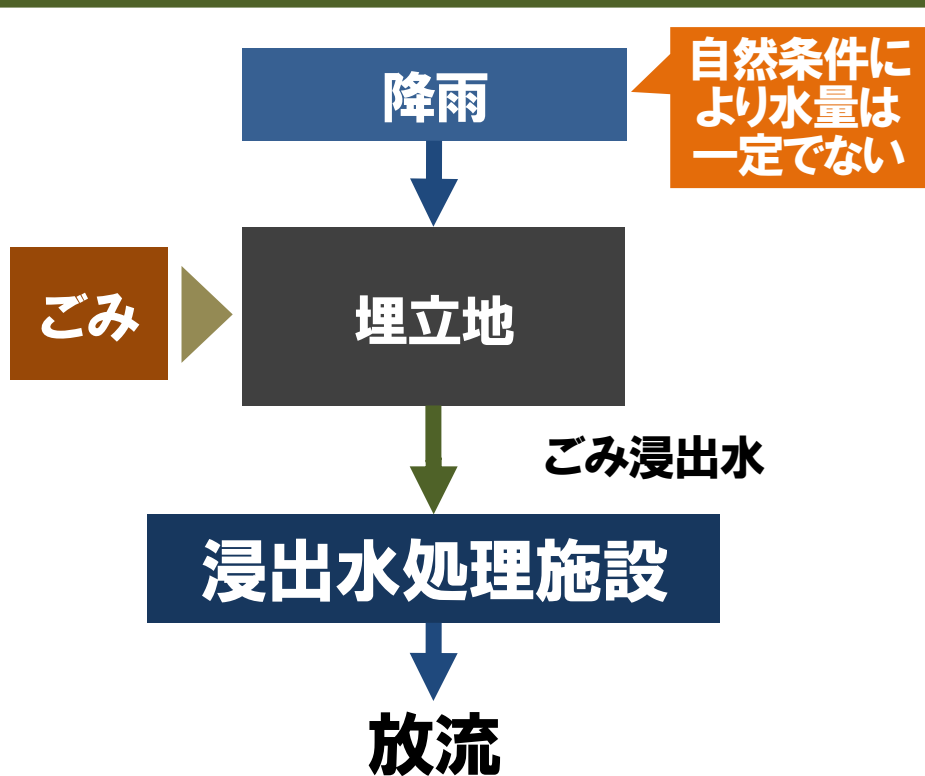
埋立槽へ

施設の特徴③

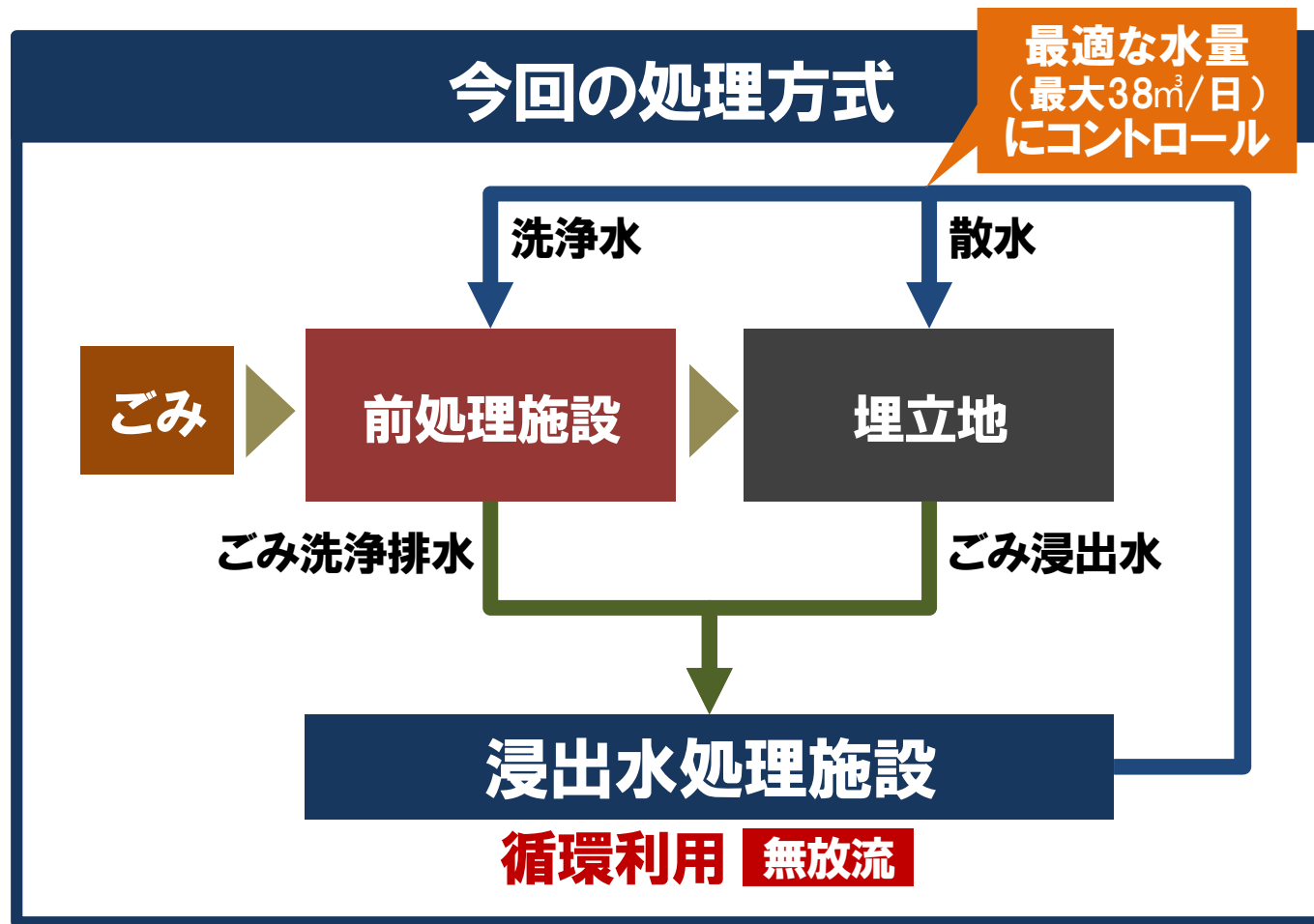
使用した水は浄化処理し、場内循環利用・無放流

埋立ごみを洗浄した後の洗浄排水及び埋立槽への散水に伴う浸出水は、浸出水処理施設で浄化処理し、再び洗浄水、散水として循環利用。場外へは一切放流しない

従来の処理方式



今回の処理方式



津市一般廃棄物最終処分場竣工式・プレスツアー

竣工式

日時

平成28年3月19日(土曜日)
10時00分～10時30分

場所

津市一般廃棄物最終処分場(美杉町下之川)

プレスツアー

日時

平成28年3月19日(土曜日) 10時30分～